



平成25年に愛知県で行われた第22回  
東海地区盲学校球技大会での試合

静かな体育館のフロアに吹笛の音が鳴り響く。「ピピー！」。2回は得点を合図するもので、同時に会場から歓声上がる。数分後、試合終了を示す3回の吹笛で43年ぶりに沼津視覚特別支援学校が優勝に輝く。大会後、会場に来ていたロンドンパラリンピック日本代表選手から祝福を受け、実際に金メダルに触れさせていただいた。

これは、東海地区盲学校体育連盟が隔年で主催する「東海地区盲学校ゴールボール大会」の様子である。視覚特別支援学校で初めてこの競技を知る生徒も少なくないが、一チーム3人で出場できるため、小規模校が多い視覚特別支援学校でも競技会への参加がしやすい。

## 東海地区大会へ向けてゴールボールに励む

く、各学校では、体育や部活動の時間を使って大会に向けた練習が行われている。

ゴールボールは、バレーボールと同じ広さのコートで、アイシールド（目隠し）を着用した一チーム3人のプレーヤー同士が、1・25キある鈴入りの専用のボールを転がすように投球したり、高さ1・5メートルの幅9メートルのゴールを体全体で防御したりして、得点を競い合う。先に述べたように、ロンドンパラリンピックで女子日本代表が世界の強豪を倒し、金メダルを獲得したのも記憶に新しい。

本県には視覚特別支援学校が3校ある。静岡県特別支援学校体育連盟視覚障害教育部や3校が所属する東海地区盲学校体育連盟の事業で、専門性の維持と継承、指導力向上などを目的とした伝達講習会も行っている。

全員がアイシールドを着用することから、視覚障害の有無にかかわらず楽しめるゴールボール。ユニバーサルスポーツの視点も含め、今後も競技の普及に貢献していきたい。

（浦清栄・静岡県立御殿場特別支援学校教諭）